■2022年度　自己評価結果

評価点　4:適切　3:ほぼ適切　2:やや不適切　1:不適切

大項目			具体的な評価ポイント	評価点	現状	課題
Ⅰ	教育理念・目標	1	学校理念･目的･育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	明確に定めている	特になし
		2	学校における職業教育の特色は明確であるか	4	学校基本情報に明確にうたっている	特になし
		3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	常に社会のニーズを踏まえた教育目標を設定している	特になし
		4	学校の理念･目的･育成人材像･特色･将来構想などが学生･保護者等に周知されているか	4	オリエンテーション、オープンキャンパスなどを通じて周知している	特になし
		5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	学科ごとの特色のあるカリキュラムにより方向づけられている	特になし
Ⅱ	学校運営	1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	運営方針は明確に策定されている	特になし
		2	運営方針に沿った事業計画は定められているか	4	運営方針に沿った授業計画を策定している	特になし
		3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	定期的な職員会議を開催し意思決定を行っている	特になし
		4	人事、賃金面での処遇に関する制度は整備されているか	4	整備されている	特になし
		5	教務･財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	法人の理事会、評議委員会で行われている	特になし

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
Ⅱ	学校運営	6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	整備されている	特になし
		7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	シラバス・ホームページにより適切になされている	特になし
		8	情報システム化等による業務効率化が図られているか	4	情報システムの担当者を配属し、集中管理し効率化を図っている	特になし
Ⅲ	教育活動	1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	策定されている	毎年変化のある業界のニーズに、更に素早く対応するよう努力する
		2	教育理念、育成人材像や業界にニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	明確にされている	毎年変化のある業界のニーズに、更に素早く対応するよう努力する
		3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	編成されている	特になし
		4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし
		5	関連分野の企業・開発施設や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし
		6	関連分野における実践的な教育産業（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	企業などの協力を得て実施している	特になし
		7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	学生による授業評価を実施している	特になし
		8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	インターンシップ等の機会を通じて取り入れている	特になし

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
Ⅲ	教育活動	9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	明確になっている	特になし
		10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	各学科の特性に応じ、必要な資格を体系的に位置付けている	特になし
		11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	実務経験のある教員、講師を確保している	特になし
		12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	4	自身の専門業務を行いながら本校の教育に携わる外部講師を多く確保している	特になし
		13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するため、教員に向けての研修や指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	外部で開催される技術研修、校内での学生指導に関する研修を行っている	特になし
		14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	外部で開催される技術研修、校内での学生指導に関する研修を行っている	特になし
Ⅳ	学修成果	1	就職率の向上が図られているか	4	専任の担当者を置き、就職率の向上を図っている	特になし
		2	資格取得率の向上が図られているか	4	通常授業内以外に専科、補講を設け、資格取得率の向上に努めている	特になし
		3	退学率の低減が図られているか	3	担任、教務などがきめ細かく対応しているが、一定数の退学者がいる	経済的な要因で学習意欲が低下していく学生に対する方策を考える
		4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	企業と連絡を密にし、就職した学生の動向を把握している	特になし
		5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	企業説明会やセミナーの際の来校や、卒業生のSNSフォローなど、学生のキャリア教育の向上に活かしている	特になし

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
Ⅴ	学生支援	1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	整備されている	特になし
		2	学生相談に関する体制は整備されているか	3	担任や教務により対応はしているが、コロナ禍でメンタル面の問題を抱える学生も多く対応に苦慮している	学校法人の設置しているカウンセリング制度利用を促している
		3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	奨学金、専門実践教育訓練給付金制度などで対応している	特になし
		4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	年1回健康診断を行っている	特になし
		5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	学生の参加するファッションショーなどに、学校の備品、施設の貸し出しなどを行っている	特になし
		6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	学生会館の紹介により行っている	特になし
		7	保護者と適切に連携しているか	4	必要に応じ、書面、メールを用いて連携している	特になし
		8	卒業生への支援体制はあるか	3	施設、備品の貸出、業務内容の広報、SNSなどによる情報拡散で支援している	同窓会による支援体制の強化を図りたい
		9	社会人のニーズを踏まえ教育環境が整備されているか	2	社会人の入学生がごく少数のためあまり整備されていない	特になし
		10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3	一部の高校へ出張授業などを行っている	さらに多くの高校と取り組みを行いたい
Ⅵ	教育環境	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	整備されている	特になし

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
Ⅵ	教育環境	2	学外研修、海外研修、インターンシップ、等について十分な教育体制を整備しているか	4	整備している	特になし
		3	防災に対する体制は整備されているか	4	整備されている	特になし
Ⅶ	学生募集	1	学生募集活動は、適正に行われているか	4	オープンキャンパス、入学相談会、高校訪問等により実施している	特になし
		2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	伝えられている	特になし
		3	入学選考は適切かつ公平な基準に基づき行われているか	4	行われている	特になし
		4	学納金は妥当なものとなっているか	4	妥当と思われる	特になし
Ⅷ	財務	1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	安定している	特になし
		2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	妥当である	特になし
		3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	適正に行われている	特になし
		4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	整備できている	特になし
Ⅸ	法令等の遵守	1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	適正に運営されている	特になし

大項目		具体的な評価ポイント		評価点	現状	課題
Ⅸ	法令等の遵守	2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	適正に対策している	特になし
		3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	行っている	特になし
		4	学校自己評価の結果を公開しているか	4	学校サイト上で公開している	特になし
Ⅹ	社会貢献・地域貢献	1	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	地場産業や商業施設などとのコラボレーションイベントなどを随時行っている	特になし
		2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	必要であれば支援しているが、把握しきれていない部分もある	特になし
		3	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	行っている	特になし
Ⅺ	国際交流	1	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等が取られているか	4	取られている	特になし
		2	留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって行っているか	3	特に積極的には行っていない	特になし
		3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	整備している	特になし
		4	学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	4	国内外のコンテストに応募するなどして取り組んでいる	特になし

2023 年 4 月 1 日

学校関係者評価委員会報告書

名古屋ファッション専門学校
学校関係者評価委員会

1．学校関係者評価委員会出席者（順不同・敬称略）

名古屋帽子協同組合　理事長　林幸春
株式会社繊研新聞社名古屋支社　名古屋業務部課長　久保寺恭稔
駐日タンザニア大使館商業文化交流中部地区　名誉代表　清水邦子
Ｄｈａｌ　代表　水谷美知
名古屋ファッション専門学校　校長　佐藤弥生
名古屋ファッション専門学校　教務主幹　桐谷里砂

2．学校関係者評価委員会開催日時

2022 年 11 月 10 日（木）10 時

3．参考資料

① 学校関係者評価委員会報告書
② 2021 年度　自己評価結果
（教育理念・目的・人材育成像、学校運営、教育活動、学修成果、学生支援、教育環境、学生の募集と受入れ、財務、法令等の遵守、社会貢献・地域貢献）
③ 2021 年度　学内外行事記録
④ 2021 年度　クラス別就職状況

4．報告内容

上記資料送付をご覧いただいたうえ、各委員様それぞれのお立場から本校へのご意見をいただきました。（別紙）

（別紙）

Ⅰ．教育理念・目標

現状と課題	本校の建学の精神である「実学と人間教育」を教育理念とし、各学生の就職目標に応じた知識、技術を身に付けるための実務教育を主体とした学習内容に加え、社会人としての一般常識、マナーなどをバランスよく習得できるような授業計画を立てている。時代に即応した実践教育を行い、ファッション製品の企画・生産、流通、販売促進などの業務を通じて、アパレル業界で活躍できる人材の養成を目的とする。 明確な目的意識や自己研鑽の意識の薄い学生も多く、就職に向けての意識付けが困難に感じられる場面も多い。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	当社の新入社員も１人１人の線が細くなっている。営業社員においても、お客様など外部の方と直接話すことを避ける傾向があって驚いている。もっとメンタルを強くする方法は無いのかと思う。また、専門分野に関しての基礎知識も、もっと掘り下げていただきたい。
<学校＞ 改善案など	学生の意識改革のため、「再審査」や「特別認定講座」など、進級システムの見直しを行い、自らの学習内容を把握し、自己研鑽できるような学生を育てたい。

Ⅱ．学校運営

現状と課題	学校法人の運営は、毎年度策定している事業計画に基づいて実行している。運営方針を含めた事業計画は、年度ごとに「理事会」「評議員会」において審議され、決定している。 本学全体の運営に関わる「自己点検・評価委員会」「学校関係者評価委員会」は既定の委員により協議決定して実施する。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	新入学生が増加するなど、コロナ禍においても良い傾向がみられるということは、今までの御校の姿勢、運営のかじ取りが間違っていなかったということだと感じる。
<学校＞ 改善案など	今後もファッション業界の動向をしっかり捉え、学校運営の方向性を策定したい。

Ⅲ．教育活動

現状と課題	教員の専門性を高めるための各種研修会、セミナーへの参加、研究発表への参加などは、徐々に対面での開催、参加が可能になってきている。多くの教員が研修などに参加し、常に社会、業界の動向をキャッチし、新しい情報を収集し、世情に合った授業内容の刷新を図っている。 授業においてはほぼ対面授業が復活しており、感染症対策として学内での安全策の実施を確実に行ったうえで、実技、実習を中心に学習するという専門学校の特色を生かした学習の場を設けている。 アパレル企業各社との連携を密にし、アパレル業界のニーズにあったカリキュラ

	ム実施に向けて検討する体制を整えているが、コロナ禍により各企業の求める人材像にも変化が感じられる。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	少し叱っても人前で泣き出すなど、当社の新入社員の状況から推し量っても、学生さんたちがコロナ禍にメンタルの部分をかなり弱らせているのではないかと思う。
<学校> 改善案など	学生一人一人の状況も違うので、グループでの作品制作などでコミュニケーションをとりながら作品を完成させることが難しくなっているように思う。解決策の一つとして、教職員より身近な存在である企業に勤務している卒業生に、企業、業界の実情を踏まえながら学生にレクチャーをしていただく機会を多く設けた。教員側も授業の内容や進め方に多くのヒントが得られた。

Ⅳ．学修成果

現状と課題	本学は担任制をとっており、各担任が就職部と連携を取り各学年の「就職特別講座」の実施や「進路報告書」の記入・提出を徹底している。 就職率は下記のようになっており、目標の 100%、もしくはそれに近い結果を出している。今後も継続できるよう支援の強化を図っていく。 2017 年度　100.0% 2018 年度　 98.5% 2019 年度　100.0% 2020 年度　 95.7% 2021 年度　100.0% 資格取得に関しては、各学科において必要とされる検定を必修とし、授業内で取り組んでいる。昨年よりも合格率が上向いている検定もあり、今後も授業内容や指導方法の検討を重ねたい。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	アパレル企業にも SDGs の目標設定が浸透しているが、環境に配慮した素材などを商談の真ん中に据えても、実際には取引の 2 割程度ではないかと感じる。また、ウクライナ紛争の影響も見過ごせない。例えば素材を扱う岐阜の企業では染色加工に圧倒的に水と電気とガスを使う。素材そのものの価格高騰の他、そういった部分を考慮すれば値上げは避けられない。それに伴ってアパレル製品も値上がりは避けられないが、一部のブランド力のある企業を除いてはそれも難しい状況である。本業が厳しいので、経営や企画の切り口を変えて新しい挑戦を考えているところも出てきている。アパレルの卸売りの市場が大きく縮小していることの影響も大きい。 実際にオリジナルで服を作って卸と直営店での販売をやっている立場から言うと、2～3 割原価が上がってきているという実感がある。機屋さんの営業さんからも「今買わないともっと値段上がりますよ」とか、「何メーター押さえないと織ってもらえませんよ」という強気な声を聞く。縫製屋さんもコロナの防護服の時に、簡単なものを縫ってそれなりの金額を得られた経験から、これだけ（大変な）も

	のを縫ってこの金額では…という気持ちが出てくる。デニムの岡山など、日本製品の良さが知れ渡っている産地では特にその傾向があって、数は作ってもらいにくくなっている。売り場では「あれ、（以前のような活気が）戻ってきたかな」と感じることも多い。あと、自店で扱っている商品だと、洋服よりも生活用品、インテリアや雑貨の動きが良くて、30 万円、40 万円するような椅子が売れていく。コロナを経て、外に出ていく時に着る洋服と、家の中の物のお金の掛け方が逆転したように思う。
<学校＞ 改善案など	2021 年度の就職実績は懸念したほど悪くは無かったが、委員の方々にお聞きしたようにアパレル、ファッション業界の人材として求められる人物像、知識や技術のあり方が大きく変化していると感じるところが多い。就職担当部署と連携し、情報を取りこぼさないよう細心の注意を払うとともに、常に業界の動向に沿った就職指導にあたりたい。

Ｖ．学生支援

現状と課題	入学から卒業まで、学業、課外活動、就職などあらゆる学生支援が必要であるが、本校はそれぞれの目的に沿って支援を行っている。 就職指導は、就職部の担当者主導のもと、教員との連携で支援を行っている。具体的には、エントリーシート記入、就職面接練習、就職対策講座、就職対策テストなどの実施、学内企業説明会の開催である。その結果、就職率のアップに繋がっている。 中途退学者率を減少させることを目標に担任は保護者、教務との連携を密にして退学に結びつきやすい状況を的確に把握し、対応できる指導体制を強化しているが、一部のクラス担当教員に、各所への連絡の遅れ、漏れが散見する。 学生の経済的支援としては､奨学金を必要としている学生が申込みの機会を逃すことのないよう、本校独自の奨学金制度や、国の就学支援策などを随時説明している。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	今まで叱ってもらえなかった人が多いのではと思う。育てるために叱るということが必要だが、それを本人や保護者が分からない場合も多くなっているので難しい。 仕事柄、キラリと光るものを持った新入社員の方にお会いする機会もあるが、そういった方々は刺激の多い環境に身を置いていることが多く能動的だなと感じる学校内だけではなく様々な社会に触れることがとても大切だと思う。 物づくりの産地である愛知県、尾州がこの先どうなるかということは皆さん思っていらっしゃるかと思うのですが、そういった身の回りのことに目を向けていくところから、学びだけではなく、学生さんにとってのきっかけや気付きになるのではないか。

<学校> 改善案など	2021 度の新入生はコロナの影響により、他者とコミュニケーションをうまく取れない状況で高校生活を送り、自主性、協調性が求められる専門学校での状況に戸惑っているようにも感じられた。普段人と接する際の注意事項など、ごく基本的なことを改めて学ばせ、そこから徐々にそれぞれの世界を広げられるよう発展させる必要があるのではないかと感じる。

Ⅵ. 教育環境

現状と課題	縫製やドレーピング、パターンメーキングなど、ファッション造形に関する備品（ミシン、特殊ミシン、アイロン、ボディなど）や、IT 機器などの施設・設備は、教育の必要性に応じて整備充実を図っておりそれらのメンテナンスにも配慮しているが、一部に経年劣化のため買い替えが必要な備品がみられる。 校舎は 8 年前に耐震工事を完了し、安全が確保されている。また、校内外の清掃は専門業者により行き届いており、清潔な教育環境が整っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	他の専門学校と比較しても設備的に見劣りするところは感じられない。 コロナ対応として、日々の清掃、消毒や手洗いなど生活習慣の励行がきちんと行われており、学生の保護者も安心すると思う。
<学校> 改善案など	引き続きコロナ対策としての清掃、消毒を行い清潔な環境を整えるとともに、各教室にプロジェクターなどの AV 設備を新規導入し、密にならずに教師の手元を画像共有しながら授業ができる環境を整えた。

Ⅶ. 学生募集

現状と課題	学校経営の基盤である学生募集については、教員をはじめ全職員が連携し取り組むべきであるが、業務過多のため意識の薄い教員もいる。 毎年 100 校以上、教員による高校訪問を行ってきたが、今年度はコロナの影響で大幅に訪問数が減少した。次年度への影響が懸念される。 同種の全国的な有名校と比較しやや認知度が低い印象があるため、認知度を高めるために学校案内（冊子）、WEB サイト、SNS など広告宣伝は、毎年高校生の動向を見つつ行っている。 入学選考については、選考基準を明確化し適切に運用している。 学納金については、社会の経済状況、あるいは他校の状況に鑑み、適切な金額を設定している。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	特になし
<学校> 改善案など	コロナの影響で、学生募集についての環境も、一気に大きな変化が起こった感がある。オンラインでのオープンキャンパスなど今まで試みたことのない手法を取り入れ、手ごたえを感じている。 高校生対象のデザイン画コンテストの入選者が入学に繋がった実績も増えてきているので、更に広めていきたい。

Ⅷ．財務

現状と課題	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	学校法人中西学園の擁する学校ということで、信頼感は大きく感じる。
<学校＞ 改善案など	さらに財務状態を良好にするため、学生募集に力を入れたい。

Ⅸ．法令等の遵守

現状と課題	監査報告書により、学校法人中西学園の業務若しくは財産の状況または理事の業務執行の状況に関し、不正行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないことが確認されている。 法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則などを法令、設置基準に基づき策定しており、改正にも速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。 また、教職員・学生などに対する啓蒙活動については、校長会議、職員会議などで周知徹底を図り、学生に対しては、年度初めのオリエンテーション時に学則、規則の説明を行っている。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	特になし
<学校＞ 改善案など	今後も現状を維持したい。

Ｘ．社会貢献・地域貢献

現状と課題	社会貢献、地域貢献により社会とのつながりを深めることは、教育上大切なことと捉えて推進している。地域の各団体と積極的にコラボレーションし、ファッションショーやイベントへの参加を通して関りを深めているが、今年度はコロナの影響で各種イベントが軒並み中止となり残念だった。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	学生と地域を結びつける試みは継続して欲しい。秋にはオアシス 21 での帽子のショーでお世話になり大変嬉しく思っている。 素材産地では社長さんの息子さんの世代がいろいろ新しい試みに挑戦し地域の産業を盛り立てようとしている。そういった企画を学生が知り、参加することで何かが生まれるかもしれない。
<学校＞ 改善案など	時代の変化を敏感に捉え、グローバル、グローカルな視点をもって、できるだけ多くの社会貢献、地域貢献行事に取り組みたい。

XI. 国際交流

現状と課題	少数の留学生が入学を希望する場合がある。会話などには不自由ないが、書類記入や課題作成などには担当者のきめ細かな配慮が必要である。 ファッション流通科の授業の一環として行っている「タンザニアフィリア」とのコラボファッションショーは、残念ながら 2021 年度コロナの影響のため中止となった。また恒例行事である海外研修旅行も 2020 年に引き続き催行中止となった。
<学校関係者評価委員会> 評価、改善提案、助言など	タンザニアとの交流イベントとして 12 月には御校を会場にしたファッションショーを開催することになっていて楽しみにしている。学生の皆さんが、カンガ（東アフリカで用いられる 1 枚布）に触れてそれを使ったコーディネートをされる時に、実際の布を見て、触って、こういう発想のある国があるんだと理解していただけると嬉しい。そこから発展させ、ゆくゆくは来日したアーティストとの交流なども行いたい。
<学校＞ 改善案など	留学生の受け入れについては、希望者があれば本人の資質、言語能力などを見極め、できる限り対応したい。 今後も可能な限り多様な国際交流に取り組み、学生の視野を広げる機会を多く持ちたい。

＜まとめ＞

本学について皆様より貴重なご意見をいただきました。コロナ禍を経て、入学生、在学生が受けた精神面での影響が、社会人として働き始めたのちにも大きく影響しているのではないかという懸念は委員の方共通の関心事だと感じました。本校の授業や学校生活での経験が、社会人となった学生の成長を支えるようなものにしていく必要を感じました。今後改善に注力していきたいと思います。

次年度の学校運営について、頂戴したご意見に基づき早々に運営計画をまとめる学内会議を設け、どのような人材を育てることを目標にするのかを最優先とし、その他の目標についても計画実施のプラン作り等の取り組みをする予定です。